

エピソード165 どんな時でも

六年生が市内音楽会に行くために、ブランコ前に集合しました。バッハザール行きのバスは、すでに来ています。

その整列した中で、二人の子が急に立ち上がり、走り出しました。校庭の中央に向かって行きます。何かに気づいたようです。私も追って行つました。

そこには、転んで泣いている一年生が一人、なぐさめている友達が一人。それに気づいた六年生が、いてもたってもいられずに、走って行ったのです。

一年生が立ち上がって歩き出すと、六年生も集団に戻っていきました。